



野菜フォローアップ巡回の様子。家庭により、栽培、管理方法が異なり、面白いです。

農業省ならではのアプローチ

青年海外協力隊 2018 年度 1 次隊 派遣国：トンガ王国 伊藤有未（三郷市）

今回は、農業省ならではの NCDs（非感染性疾患）対策について、ご紹介します。トンガでは保健省のみならず、私の配属先である農業省でも、食習慣の面から NCDs 対策に注力しているのが特徴です。エウア支局では、野菜苗の育苗と配布に加え、配布苗のフォローアップ巡回も実施しています。

NGO 団体トンガヘルスの支援により野菜の種が支給され、農業省の菜園で、

移植可能な大きさまで育苗。トマト、レタス、チンゲン菜、ピーマン、唐辛子、トンガ玉ねぎ、人参、いんげん、きゅうりと種類豊富に栽培しています。住民への提供方法は、有償無償と議論もありましたが、2019 年は無償提供となりました。配布は、基本的に苗がほしいエウア



こうして各家庭の菜園を見せてもらい、足を運んで確認します。

住民が農業省を訪れる方式。ワークショップ等でコミュニティに赴く機会に、苗の準備ができていることをアナウンスし、住民の来省を促します。受領者名、住所、何をいくつ配布したかを記録に残し、その記録をもとに同僚がランダムで巡回リストを作成。（着任後に記録簿を作成。どうやらそれまでは配布のみ、で記録管理はなされていなかったよう。）各家庭を訪れ、配布した野菜苗を確認し、写真を撮るのが一連の流れとなっています。配布して終わりではなく、種まきから植栽確認までの流れが確立しつつあることは成果かと思います。

11月中旬、トンガ人の同僚に私の活動状況表を見せ、その際にフィードバックをもらいました。その中に、「今年はこれまでに1番多くの野菜苗を配布し、エウアの人たちの健康維持に向け、NCDs対策の一環として貢献できた」とのコメント。「農業省として自分たちができるNCDs対策に乗り出せている」と同僚が達成感を得ていることに、私も嬉しくなりました。野菜シーズンは、3月から8月。限られた期間ではありますが、大洋州でも土の質がよく、栽培環境には恵まれているトンガの土地で、少しでも多くの人たちが家庭菜園を身近に感じ、野菜も高価でなく自給自足できる、そんな環境を目指していきます。



農業省の菜園にて、皆で種まき。土の準備は男性陣の手を借ります。土日の水やりは、ボランティアが担当。